

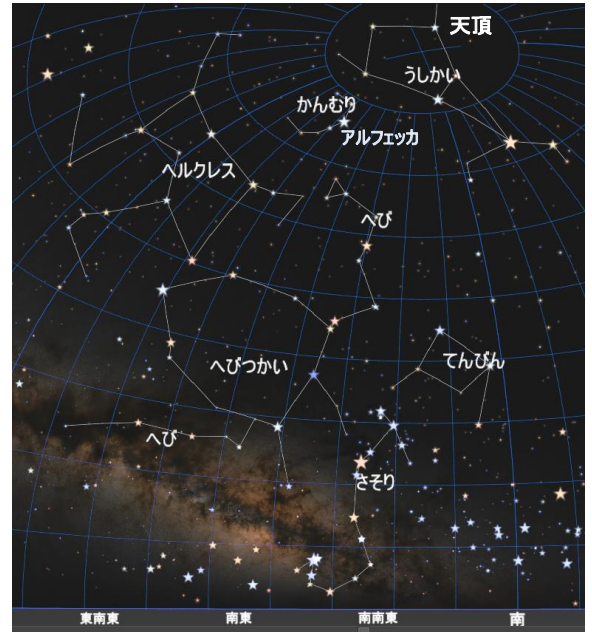
ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

6月は日の入りの時刻が午後7時頃と遅く、21日には昼の時間が最も長くなる「夏至」を迎えます。6月の中旬、夜9時頃には、春の星座は西に傾き、南から東にかけての空には夏の星座が昇っています。南の天頂には春の星座「うしかい座」があり、その東側には、「かんむり座」、「ヘルクレス座」が並び、南には「へび座」と、その「へび」をつかんで立つ「へびつかい座」があり、「へびつかい座」の西には「てんびん座」、「さそり座」と、夏の星座が見えています。

その中で、「うしかい座」の東にある「かんむり座」は、小さな星座ですが、最も明るい2等星アルフェッカを中心に、7つの星が半円形に並び美しい形は、「冠」のイメージにぴったりの星座です。アルフェッカとは、アラビア語で「欠けた明星」のことで、またの名をラテン語で「宝石」を意味するゲンマともいいます。この星以外は4等星以下と暗いので、首飾りのように並び美しい形を見るには、街明かりの届かない場所に行かなければなりません、足を運ぶだけの価値はありますので、ぜひ、観測に挑戦してみてください。

星図は、ステラナビゲーター11を使用して作成



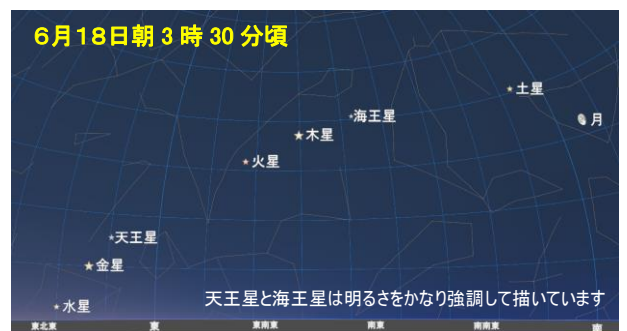
★ くるまぼし(車星)・たいにぼし(太鼓星) [星の和名のお話]

「かんむり座」は和名で「車星」や「太鼓星」と呼ばれます。西洋では冠に見立てられています。日本ではその半円形の連なりを丸くつなげて、車や太鼓と見ていたと考えられます。他には、「かまど星」「くど星」「へつい星」などとも呼ばれていました。「かまど」も「くど」も「へつい」も、現在ではほとんど使われていませんが、下から火をたき、お釜や鍋を置いて調理をする設備です。今でいえば、仕組みは違いますが、ガスコンロのようなものです。また、地方によっては、盆踊りの輪に見立て「踊り子星」や、虹に見立て「虹星」などの和名も伝えられています。日本では、生活に身近なものとして見ていたようです。



★ 惑星の勢ぞろいに注目!

6月中旬から下旬にかけて、明け方の空に全ての惑星が勢ぞろいします。こんな機会はなかなかないので、観察してみてください。例えば、18日の日の出1時間前(朝3時30分頃)をみてみましょう。南の空に月があり、東へ向けて、土星・海王星・木星・火星・天王星・金星・水星が並びます。ほぼ直線状に並んでいるのは、惑星たちが太陽の周りのほぼ同じ平面上を公転していて、同じ平面上にある地球から見ているからです。肉眼で見えるのは、土星・木星・火星・金星・水星の5つですが、この機会にぜひ観察してみましょう。

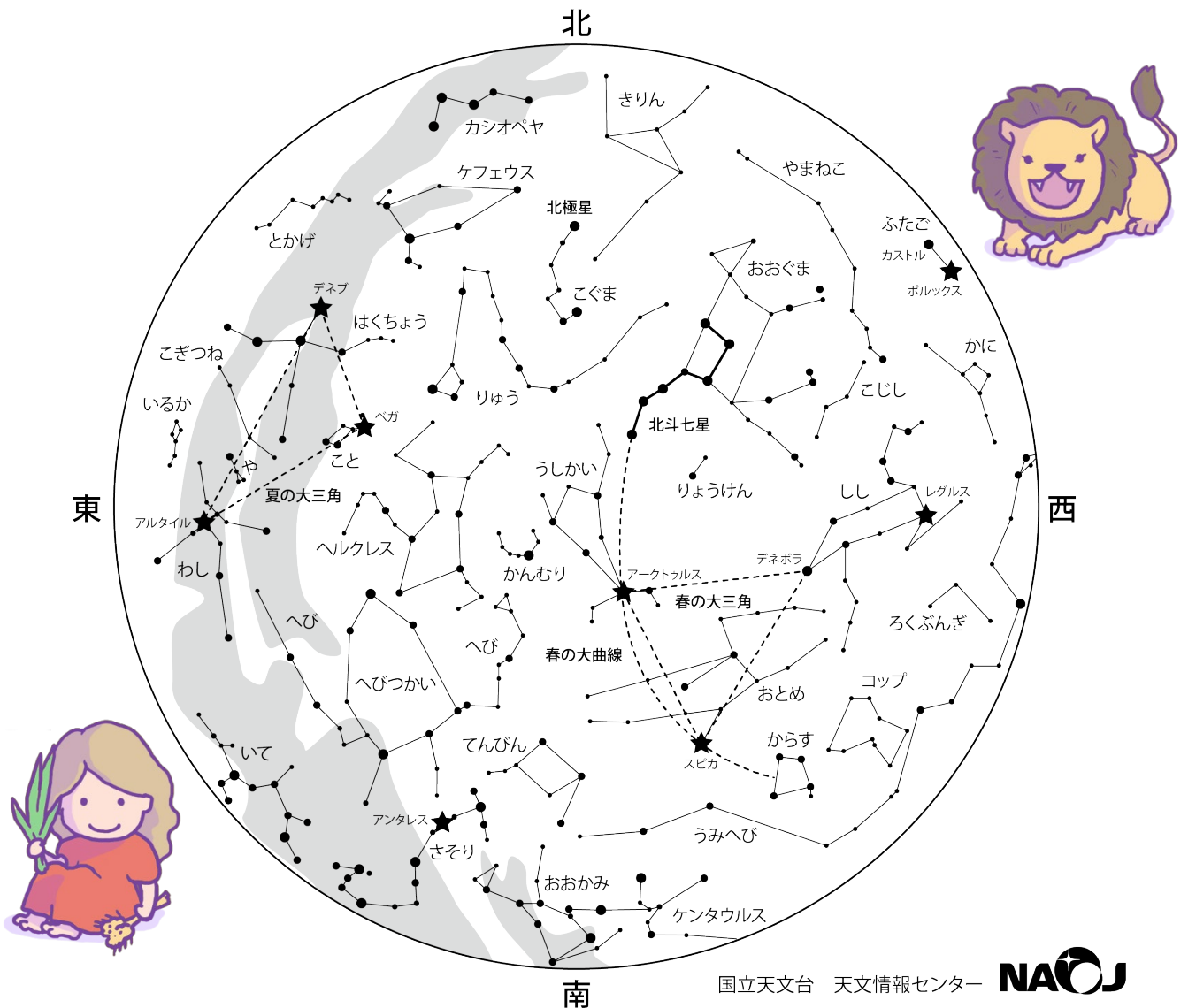


★ 6月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 6/6(月)、13(月)、15(水)、20(月)、27(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

6月上旬午後9時頃の星空



★ 6月上旬の主な天文現象

6日(月)	ぼうしゅ 芒種	12日(日)	てんのうせい せつきん 金星と天王星が接近
7日(火)	じょうげん 上弦	14日(火)	まんげつ 満月
8日(水)	おとめ座7番星の食		

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 6/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	6月 1日(水)	[見やすさ ◎]	20:19	北西	~	20:24	東南東
◇	6月 2日(木)	[見やすさ ◎]	19:31	北北西	~	19:37	東南東
◇	6月 3日(金)	[見やすさ ◎]	20:20	西北西	~	20:24	南
◇	6月 4日(土)	[見やすさ ◎]	19:31	北西	~	19:38	南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。